

日本鉄鋼協会記事

昭和 30 年度第 9 回理事会 日時：30—10—00（月）17・00～20・00。会場：協会会議室。出席者：沢村会長、蜂谷副会長、芥川、浅田、河上、俵、三井(代)各理事、石原、志村各監事、三島、山岡、各前会長、伊木、佐藤、西村、橋口各常務委員、橋本事務局長。

報告事項 I. 第7回編集委員会の件(別掲) II. 臨時編集委員会の件(別掲) III. 企画委員会の件。IV. 秋季講演大会の件。V. 分析化学中央機関設定要請の件。VI. 名誉会員ボーン氏来朝の件。

協議事項 I. 明年度春季大会会場の件—東京大学に決定、講演会期日は4月1日～3日の間とする。
II. 明年度秋季大会開催地の件—広島市にて開催のことに決定。III. 第2回大河内記念賞受賞候補者推薦の件—高石義雄氏、日立製作所並びに日本鉄板、住友金属工業鋼管製造所、富士製鉄室蘭製鉄所の4件を推薦のことに決定。
IV. 印度金属学会第9回総会に出席方招請の件—招請のあつた旨会告に、別に関係維持会員に案内を出すことに決定。
V. 9月中収支決算の件—承認。VI. 9月中入退会者その他会員異動の件—承認。VII. 会員増加運動の件(追加)—企画委員会で検討のことに決定。

昭和 30 年度第 8 回編集委員会 日時：30—9—23（火）16・30～21。会場：協会会議室。出席者：芥川 理事外 10 名。

報告事項 1. 昭和 30 9 年月号は 8 月 31 日完成発送済み。2. 昭和 30 年 10 月号は 9 月 30 日迄に完成の予定。3. 昭和 30 年 11 月号は 10 月 30 日迄に完成の予定。4. 昭和 30 年 12 月号は 11 月 25 日迄に完成の予定。

協議事項 1. 昭和 30 年 12 月号論文原稿選定の件、別紙の通り決定(別紙省略) 2. Tetsu-to-Hagane Abstracts No. 4 編集の件：山木、森永、松下委員および高見沢囑託担当編集に決定。3. 日本機械学会より編集上に関し問合せの件、別紙の通り回答(別紙省略)。

臨時編集委員会、日時：30—10—4(火) 会場：富士製鉄洞爺会館 出席者：北海道支部より久田、田島、鶴田、前川、吉井各氏。本部より芥川理事外 7 氏—会誌その他協会の事業に対する支部の要望を聴き、意見交換、懇談した。

第 50 回講演大会 30 年度秋季講演大会は予定の通り 10 月 1 日より 4 日まで、北海道札幌市において次の通り開催された。

I. 講演会 1 日、2 日の 2 日間北海道大学において行われた。初めに伊藤実行委員長(本会北海道支部長)の挨拶並びに沢村会長の開会の辞があり、次いで 4 会場に分れて夫々講演があつた。講演申込数 88 内取消 1、不参 1 講演数 86、出席者第 1 日 230 名、第 2 日 220 名。

II. 特別講演会 1 日 15・00 より工学部講堂において開かれ、次の講演が行われた。

(1) 北海道における地下資源(特に製鉄に関するもの) 北海道大学教授 理博 鈴木 醇

(2) 鉄鋼技術界における最近の重要な 2, 3 の進歩 京都大学教授 工博 沢村 宏

講演の後「雪の楽園」その他の映画による冬季北海道の紹介があつた。

III. 懇親会 1 日 17・30 より産業会館において札幌市長の歓迎会と本会懇親会とを兼ねて開催。参加者約 100 名。市長、実行委員長、会長より夫々挨拶があり、後懇談に移り、開催地側および協会側より数氏交々起つてテーブルスピーチを行い、和気暖々の裡に 11・00 散会した。

IV. 見学会 3 日、4 日の両日に亘り、次の 4 班に分れ、諸工場を見学し、また明媚なる風景を観光した。

第 1 班(参加者 56 名) 支笏湖を経て王子製紙苫小牧工場を見学して、登別温泉に 1 泊、翌日富士製鉄室蘭製鉄所並びに日本製鋼所室蘭製作所を見学。

第 2 班(参加者 23 名) 定山溪を経て日鉄鉱業脇方鉱業所を見学して洞爺湖温泉泊、第 2 日に室蘭製作所および室蘭製鉄所見学。

第 3 班(第 4 班併合参加者 15 名) 3 日国鉄苗穂工場、北日本鋼機、林檎園、月寒学院を見学。

第 5 班(参加者 20 名) 4 日室蘭製作所、室蘭製鉄所を見学。